

Title	福澤研究センター彙報
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾福澤研究センター
Publication year	2002
Jtitle	近代日本研究 Vol.19, (2002.) ,p.199- 215
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20020000-0199

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福澤研究センター彙報

▽活動記録（二〇〇二年度）

運営委員会

第一回 三月一四日（木）

議題

- 一 所員任期満了者の重任について
- 二 二〇〇二年度客員所員委嘱について
- 三 福沢先生歿後百年記念事業経過説明
- 四 福澤研究センターホームページについて

第二回 九月二〇日（金）

議題

- 一 活動状況の紹介
- 二 運営委員選任について
- 三 所長選任について
- 四 副所長選任について
- 五 福澤研究センターホームページについて
- 六 収蔵庫の修復完成披露

小展示会開催と出品目録

「展示資料目録―第一六八回福澤先生誕生記念会―」

二〇〇三年一月一〇日（金）

於 三田・学生食堂ホール

福澤先生歿後百年記念事業への参画

一 『福澤諷吉書簡集』の刊行（岩波書店）

第八卷 六月二七日発売

第九卷 二〇〇三年一月二八日発売

二 同書簡集編集委員会議事録摘要（稿末別掲）

▽スタッフ

所長 坂井 達朗 文学部教授（重任）

副所長 松崎 欣一 志木高等学校教諭（重任）

岩谷 十郎 法学部教授（重任）

運営委員 紺野 敏文 文学部教授（重任）

坂本 達哉 経済学部教授（重任）

小室 正紀 経済学部教授（重任）

寺崎 修 法学部教授（重任）

玉置 紀夫 商学部教授（重任）

小野 修三 商学部教授(重任)
 竹内 勤 医学部教授(重任)
 久納 孝彦 理工学部教授(重任)
 梅垣 理郎 総合政策学部教授(重任)
 樽井 正義 文学部教授
 池田 幸弘 経済学部助教授
 有末 賢 法学部教授
 平野 隆 商学部助教授
 牛島 利明 商学部助教授
 藤田 弘夫 文学部教授
 山内 慶太 看護医療学部助教授
 米山 光儀 教職課程センター教授
 加藤 三明 幼稚舎教諭
 岩崎 弘 幼稚舎教諭
 西澤 直子
 山根 秋乃

▽顧問

顧問
 石坂 巖 名誉教授
 河北 展生 名誉教授
 小泉 仰 名誉教授

▽客員所員(就任順)

飯田 鼎 名誉教授
 中村 勝己 名誉教授
 桑原 三郎 元幼稚舎教諭
 内山 秀夫 名誉教授
 佐志 傳 元高校教諭
 西川 俊作 名誉教授

客員所員

前坊 洋 東北公益文科大学助教授
 佐藤 正幸 山梨大学教授
 堀 幸雄 東北文化学園大学教授
 掛川トミ子 関西大学名誉教授
 進藤 咲子 東京女子大学名誉教授
 長 幸男 東京外国語大学名誉教授
 松田宏一郎 立教大学教授
 區 建英 新潟国際情報大学教授
 E・O・A・チエックランド
 グラスゴー大学名誉研究員
 白井 堯子 千葉県立衛生短期大学教授
 西田 毅 同志社大学教授
 片岡 豊 白鷗大学教授

林 宗元 韓国関東大学校教授

平山 洋 静岡県立大学助手

川崎 勝 南山大学教授

高木 不二 大妻女子大学短期大学部教授

藤原 亮一 苫小牧駒澤大学助教授

松沢 弘陽 福澤論吉協会理事

我部 政男 山梨学院大学教授

井田 進也 大妻女子大学教授

アルバート・クレイグ

ハーバード大学名誉教授

宮村 治雄 東京都立大学教授

森川 英正 元慶應義塾大学教授

浜野 潔 関西大学教授

曾野 洋 玉川大学助教授

飯田 泰三 法政大学教授

山田 央子 青山学院大学助教授

嘱 託 佐渡真理子

堀田 直美

非常勤嘱託 古郡恵美子

木崎 洋子

菅田万里子（二〇〇二年四月一日就任）

▽刊行・編纂物

『近代日本研究』第一八卷（二〇〇一）

（目次）

福澤書簡に見るある地方名望家の軌跡―伊東要蔵と福澤論吉― 松崎欣一／明治十三年・三河国明大寺村天主教徒自葬事件 都倉武之／萩の乱に関する史料的研究 田村貞雄／敵復の老莊注釈における意味 區建英

／*Takahashi Korekio's Fiscal Policy and the Rise of Militarism in Japan during the Great Depression*, Richard J. Smethurst／（史料紹介）「箕浦勝人 懐旧談草稿」 坂井達朗／小幡篤次郎考Ⅱ―慶應義塾教職員として― 西澤直子／福澤研究センター彙報

▽事務局

事務長 東田 全義

課長代理 赤尾 迪子

事務員 中沢 正子

（改訂版）福澤研究センター資料（４）

「三田演説会資料」編集・解説 松崎欣一

『福澤諭吉書簡集』編集委員会議事録摘要

第一回 一九九八年 四月三〇日

岩波書店担当者沢株・因幡両氏と編集委員顔合わせ

今後のスケジュールの決定

第二回 同 五月一六日

凡例案および本文の入力マニュアルの検討

注の執筆方針の検討、試作の分担決定

第三回 同 六月二〇日

組見本初稿の提示

注の試作案の検討

人名小辞典編集の可能性の検討

第四回 同 七月二五日

各巻の頁数について

人物に関する注の分量について

第五回 同 八月二〇日

人物に関する注のつけ方および参考文献の示し方について

討議

第六回 同 一〇月一〇日

注執筆要項の配布

七巻の巻立て編成案提示

第七回 同 一二月 四日

第一巻原稿入稿の目途について

中間合宿について

第八回 一九九九年 一月三二日

組見本第二次案の提示

索引の作成方法について討議

第九回 同 三月一四・一五・一六日

於 慶應義塾伊豆高原荘

人物注のつけ方について

英文書簡の扱い方について

参考文献の表記の仕方について

参考資料の示し方について

表記の統一について

発信年の推定について

参考書簡の取り扱いについて

書簡番号のつけ方について

第一巻の構成について

第一〇回 同 四月三二日

注の字数について

代筆・同文の書簡の取り扱いについて

「続全集編集用資料」の扱いについて

第一巻の構成について

月報の作製について

参考書簡の表記の仕方について

第一一回 同 五月二十七日

事実に関する注について

各巻の解題について

巻立ての編成について

第一巻注の執筆状況報告

第一二回 同 七月一日

注入力の際の使用ソフトについて

第一巻解題について

巻立てを八巻とする案について

書簡に類似した様式を持つ書簡以外の文書の扱いについて

同封書簡の扱いについて

第一三回 同 七月二十九日

七巻までの担当者の決定

年齢の表記の仕方について

第一巻の注の合評会について

夏休み中の合宿について

第二巻入稿の期限について

第一四回 同

八月二・三・四日
於 富士見ヒルサイドホテル

第一巻注の合評

「困み記事」について

封筒事項の記載の仕方について

第一五回 同 八月三十一日

読み返しの出来ない書簡（Z書簡）について

第一巻総頁数は、四三〇を上限とする

第一六回 同 九月三〇日

校正の方針について

構成を、書簡本文、直後注、「ひと」、「こと」、「こと」、解題とする

る

旧字の扱い、特に「澤」と「應」について

第三巻までの所収年度確定について

第一七回 同 一〇月二十四日

八巻までの巻立てと所収年度について

第一巻注の提出状況について

第一巻の編集の今後のスケジュールについて

第一八回 同 十一月二十二日

第一巻注の提出状況について

注の文体の整合性について

校正の進行状況

於 ラフォーレ山中湖

凡例の検討

第二巻注の検討

第一九回 同 一月二四日

第三巻「ひと」、「こと」の案提示

第一巻注の訂正作業について

第二三回 同 四月二七日

第一巻「ひと」の選択について

注組見本について

人名の漢字表記について

一巻あたりの頁数の上限を四三〇とする

凡例の検討

第一、二巻ともに四〇〇〜五〇〇頁減らす必要あり

第二〇回 二〇〇〇年一月二八日

分量削減の方法について

凡例の検討

今後のスケジュールについて

第一巻の進行状況について 二月一〇日入稿を日指す

第一巻本文再校返却を五月半ばとする

第二巻の進行状況 注原稿の提出、「ひと」、「こと」の

第一巻注初稿返却を連休明けとする

選出

第二四回 同 五月二五日

第二一回 同 二月二五日

第一巻注の削減作業について

修正凡例案の提示

一点あたり最高一〇〇〇字とする

第一巻書簡本文再校の時期

「ひと」、「こと」の表記を番号(五十音順)にする

第二巻書簡本文初稿の時期

第二巻注原稿について

第一巻注の原稿の形式的不統一の修正に関する問題点

第二巻の収録年度を明治一三年六月までに変更

第一巻注の合宿による読み合わせ会の開催

第三巻以降は各書簡の注の分量を編集担当者から内示し

第二巻注の締め切りを三月二一日とする

てはどうか

第三巻注の締め切りを五月末とする

第二五回 同 六月三〇日

第二二回 同 三月三一日、四月一・二日

判形、定価の決定 四六判 各巻平均四三〇頁とする

第一卷の進行状況

近々に注の再校が出るが、事実上の初稿である
参考資料は出来るだけ削除した
「ひと」、「こと」を充実させ、注の量を減らす

凡例の検討、翻刻の原則の表示

封筒事項の記載の仕方について

参考資料の掲載の仕方について

第二六回 同 七月三二日

小松常任理事と岩波書店との相談（七月一八日）につき

報告

一卷四〇〇頁、定価三〇〇〇円に押さえる

注は一通当たり平均二五〇字とする

内容見本について

義塾買い上げ部数について

第一卷の進行状況

注を一通あたり平均一行減らす

今後は形式面の体裁統一作業を行う

中扉の体裁について

第二卷の進行状況

注の第一回の修正終了

分量は第一卷に比してかなり削減している

「ひと」、「こと」の分量削減が必要

本文の再校は九月一日返却予定

第三卷の進行状況

注の原稿提出締め切りは七月末

注の入稿は九月末

福澤書簡の範囲について

代筆、「伝声」等の扱いについて

第二七回 同 八月三一日

巻立てを九巻とすることに決定

各巻の編集責任者の再確認

第一卷の進行状況

年号の記載方法、送りがな等の統一作業中

注再校の返却は九月第一週

第二卷の進行状況

注の分量削減作業中、九月二〇日入稿予定

書簡本文再校は返却済み

第三卷の進行状況

原稿注は五〇％提出済み

書簡本文は校正中

第四卷の進行状況

「ひと」、「こと」の案を提示

注の原稿締切は九月末とする

漢字の字体、特に「澤」について

表紙、箱のレイアウト

中扉の構成について

月報について

内容見本について

第二八回 同 九月二十九日

小松常任理事退職に伴い、刊行委員長の交替について

後任は湯川常任理事と決定

漢字の字体について

「澤」は、本文中では「沢」とする

背表紙、扉、序文、奥付、箱などには「澤」を用いる

第一巻の進行状況

注の三校は一〇月一〇日予定、一ヶ月で返却

「ひと」、「こと」、「糸図」をまとめて補注とする

第二巻の進行状況

注は九月二二日入稿済み

第三巻の進行状況

注は巻担当編集委員で修正中

四部分構成とする

第四巻の進行状況

注原稿の締め切りは九月末

「ひと」、「こと」欄の決定案作成中

第五巻の進行状況

注の分担を決定

注執筆上の注意、とくに引用の誤りについて

封筒事項の取り扱いについて

発信印、受信印の情報は必要な場合のみとする

内容見本の執筆者の選定と依頼について

束見本について

第一巻月報の執筆者の人選と依頼について

第二九回 同 一〇月二一日

第一巻の進行状況

三校は一〇月二六日締め切り

一二月八日校了の予定

凡例の確認

口絵、中扉について

第二巻の進行状況

書簡本文は読み返し可能書簡(A)、読み返し出来ない書簡(B)共に再校返却済み

注は目下初校中

第三巻の進行状況

一〇月二〇日注の原稿提出完了

本文はA、Zともに初校返却済み

第四巻の進行状況

注原稿未だ揃わず

第三〇回 同 十一月六日

第一巻の進行状況

注、本文とも三校終了

第二巻の進行状況

注の初校は来週返却

第三巻の進行状況

注の原稿は編集担当者による修正をおこなった上で、

事務局が形式的統一を行う

本文の再校は十一月六日受け取る

第四巻の進行状況

注の原稿は六二%提出済み

第三一回 同 十一月三日

第一巻の進行状況

第四校進行中

解題は編集担当者の連名とする

第二巻の進行状況

「ひと」、「こと」の項目の最終的決定は解題との関連

で決定する

第三巻の進行状況

注は編集担当者が修正し、その後事務局で統一する

「ひと」、「こと」の原稿締切期日を十二月二〇日とする

五月刊行を目指す

第四、五巻の進行状況

第四巻注の原稿締切は一月八日、五巻は一月末

「ひと」、「こと」の原稿も同時に提出する

同一文面の書簡の扱い方

番号はそれぞれに与え、本文の印刷は省略

注はそれぞれに付ける

第三二回 二〇〇一年一月六日

第一巻の進行状況

総頁数は四九〇になるか

超過分は第二巻以下でカバーする必要がある

一月二三日刊行予定

第二巻の進行状況

総頁数は四三〇を上限とする

解題は一〇頁を予定

口絵には新出書簡を使う

第三卷の進行状況

注の原稿に未提出のものあり

第四、五巻について

ともに注の原稿作成を急ぐ必要がある

校正の役割分担について

『全集』からの引用は事務局でチェックする

第三三回 同 二月二日

第一巻 一月二三日刊行済み

寄贈先の決定について

塾外寄贈リストはセンターと塾監局と共同で作成する

第二巻の進行状況

書簡本文は二月二日入稿

解題は二月六日入稿

注、「ひと」、「こと」は二月一三日入稿

刊行は三月二三日

第三巻の進行状況

注は二月二日入稿

第四巻の進行状況

注の原稿締切は二月中旬

第三四回 同 三月一三日

第三巻の進行状況

本文、注の合体した初校は次週に出る

校正は三月中旬に終了する

第四巻の進行状況

「ひと」、「こと」の入稿は四月一五日

第五巻の進行状況

近日中に「ひと」、「こと」のリストを確定

各巻の分量について

第一、二巻で膨れた分を三巻以下でどのように吸収するか

「ひと」、「こと」の分量を減らす

注の冒頭の要約を短くし、封筒事項をその下に入れる

る

注は要約を含めて平均五行とする

編集作業の能率化のために

各巻担当者および坂井、松崎、竹田で編集小委員会を構成する

小委員会の職務は以下の通り

収録書簡の決定、年代の確定

注の字数の決定

注の執筆者による校正と事務局による校正との統一について

について

注の執筆者による校正は本文・注の合体時に行う

事務局による校正は、表記の統一、基本的文献による内容の確認、引用の確認を主体とする

『福澤諷刺吉書簡集』の配布先について

事務局人事について

堀田直美君の所属変更（慶應学術事業会へ）

川本理住君退職

出版記念パーティーの開催について

四月二日 午後六時三〇分

於 三田ファカルティクラブ

第三五回

同 四月一三日

第二卷 三月二三日刊行

第三卷の進行状況

四校ゲラの返却は二三日午前中 二六日責了とする

第四卷の進行状況

注原稿の整理は五月三日までに巻担当編集委員で行う

「ひと」、「こと」の原稿締切は四月二八日

第五卷の進行状況

注の原稿締切は五月七日

第六卷の進行状況

「ひと」の候補提示

第三六回

同 五月一日

第三卷の進行状況

四月二六日責了、五月二三日刊行予定

総頁数三八〇

第四卷の進行状況

総頁数を縮小するため

注を削減し、同封資料、参考資料はできるだけ省く

初校出校後、すぐに本文と注の合体を行う

発信年の推定変更のために他巻へ移動する書簡について

いて

第五卷の進行状況

注原稿の提出は約半分

外国人の姓名の表記の仕方について

第六卷の進行状況

「ひと」、「こと」の選択および執筆分担

書簡本文の入稿予定について

各巻の章立てについて

年度にこだわらず、各巻四ないし五章とする

補遺について

正誤表は第九巻にまとめる

第三七回

同 六月二三日

寄贈先リストの回覧

第四卷の進行状況

構成は五章立てとする

中扉に使う写真について協議

本文、注の合体校は六月一九日返却

第五卷の進行状況

注の圧縮について

一通あたり平均五行削減する方向で検討中

「ひと」、「こと」の原稿締切は六月末

第六卷の進行状況

注および「ひと」、「こと」の原稿締切は七月一〇日

封筒のみ残っている場合の扱い方について

索引の作成について

表示は書簡番号による

取りあえず固有名詞を拾う

学生アルバイトにより、夏休みに入った時点で作業を開始する

担当常任理事の交代について

湯川常任理事の退任、関場常任理事の就任

第三八回 同 七月一九日

第四卷の進行状況

七月二六、二七日に出張校正、責了

八月二三日刊行予定

第五卷の進行状況

本文、注の合体校は七月二五日出校予定

注の執筆者による校正締切は八月六日

岩波書店への返却は八月二〇日

第六卷の進行状況

注の原稿締切は七月三十一日

次回編集会議は合宿で行う

第三九回 同 八月三〇・三十一日、九月一日

於 ラフォーレ強羅

第四卷 八月二三日刊行

第五卷の進行状況

総頁数は二七〇となり、解題を少し削減する必要あり

第六卷の進行状況

注原稿は九五％提出済み

五章立てとする

第九卷（最終卷）の構成について

明治三〇年以降発信の書簡

年未詳の書簡

補遺

索引

正誤表（本体に掲載するか月報に掲載するか）
索引について

人名索引のみとするか、事項索引を入れるか

『福澤事典』（仮称）の編集の可能性について

第四〇回 同 九月四日

第六巻の進行状況

本文、注の合体校の出校は一〇月中

責了は一二月初旬 刊行は二〇〇二年一月二三日の予定
定

解題は目下執筆中

第七巻の進行状況

本文原本校正は四分の一終了、入稿は一〇月後半

本文と注の合体は初校終了後 その時点で「ひと」、

「こと」の項目決定

刊行は二〇〇二年三月二〇日の予定

第八巻の進行状況

注の執筆分損を決定

第四一回 同 一月二二日

第五巻 一〇月二三日刊行

第六巻の進行状況

口絵の決定

責了は一二月一四日

第七巻の進行状況

注は一二月二日入稿予定

年内に注だけの初校を出し、執筆者の校正を行う

書簡本文の初校は一二月二日返却予定

本文・注の合体校は一月一五日出校、一月末返却

第八巻の進行状況

注の原稿締切は一月下旬

第九巻の進行状況

注の締め切りは三月末

年未詳書簡の配列の仕方について

第四二回 同 一二月二〇日

第六巻の進行状況

一二月一七日責了 二〇〇二年一月二三日刊行予定

第七巻の進行状況

「ひと」、「こと」の原稿はほぼ提出済み

注の初校を一二月二八、二九日から一月一〇日の間に

行う

三月二二日刊行予定

第八巻の編集状況

「ひと」の項目決定

第九卷の進行状況

発信年末詳の書簡の注の分担を決定

参考文献リストを掲載する予定として準備する

第四三回 二〇〇二年一月二五日

第七卷の進行状況

三校の返却は二月二五日とする

責了は三月六日、刊行は二二日とする

「ひと」、「こと」の原稿提出は一月二八日締め切り

第八卷の進行状況

注の原稿締切は一月末

「ひと」、「こと」の項目の候補は第九卷と合わせて決定する

第四四回 同 三月一日

第七卷の進行状況

本日念校出校

三月二〜四日で出張校正 四日午後二時責了

第八卷の進行状況

巻担当者による注の検討、センター事務局による修正

は四分の一終了

三月一五日入稿予定

第九卷の進行状況

注原稿提出の締め切りを四月六日とする

索引について

本文のみの人名索引とする

第九卷に付ける

校了は刊行一ヶ月前と考え、作業日程を組む

巻担当編集者で索引のための小委員会を設ける

第四五回 同 四月一日

第七卷

三月二二日刊行

凡例の正誤訂正について

第八卷の進行状況

注執筆者による校正は四月一日までに返却

素読みおよび発信年月日、宛先、引用文献のチェック

を優先すること

四月一九日返却を旨指す

「ひと」の朝鮮の亡命政治家はとりやめ、解題で述べ

る
朴泳孝の「ひと」欄を設ける

第九卷の進行状況

冒頭に塾長の「終刊の辞」をおく

索引の前に委員会名の「編集後記」をおく

第四六回 同 五月一日

第八卷の進行状況

四月二六日三校出校、なるべく早く返却する

解題の内容について

第九卷の進行状況

注の原稿未提出分は、分担者を変更する

「こと」の項目決定

「ひと」は設けない

索引のサンプルを入稿し、次回組見本を提示する

第四七回 同 六月六日

第八卷の進行状況

六月八日責了、二七日刊行予定

第九卷の進行状況

明治三一〜三四年分は初校校正終了

年末詳、続全集編集用資料は来週入稿

「こと」の一部タイトル変更

索引

組見本は来週各委員宛に発送

アルバイト学生の作業分担

補遺

新資料

後から既刊巻に収録すべきことがわかった書簡

通し番号は付けるが順番は発信年月日順ではない旨

を凡例で断る

第四八回 同 七月四日

第八卷

六月二七日刊行

第九卷の進行状況

書簡として採用すべきでないものの処理

正誤表の収録位置について

刊行後判明した人物に関する注の処理

索引について

活字はCentury Oldを用いる

字間、行間は組見本のとおり

改姓は↓で示す

巻数は○囲み数字で示す

名宛人である場合はイタリックにする

人名、組織名の索引とする

本文および直後注を対象とする

補遺について

本来の収録巻刊行後に新発見されたもの、年末詳として

処理されていたが年代が確定したものを収録

その他のつきもの

事務局スタッフリスト

編集委員会議事録

岩波書店への謝辞は塾長の「終刊の辞」の中で

第四九回 同 八月一日

第九卷本文の編集について

年譜の所収位置について

年末詳分の原稿入稿は一斉休暇明け、三一年〜三四年

分はしばらく後

口絵写真および扉写真の候補の検討

索引について

対象は書簡本文および一行要約、封筒とする

個人名、組織名に限り、国名、地名は対象外とする

八月中に入力、九月第一週に入稿

索引組見本について

数字は途中で割らないのを原則とする しかし無理は

しない

イタリックは現行のままでよし

第九卷刊行は一月二〇日校了、一二月一二日発行の予

定

索引小委員会 同 八月三十・三十一日、九月一日

於 都ホテル東京

索引項目の決定

第五〇回 同 九月二日

第九卷本文の編集状況

年末詳および補遺の著者校正は九月一七日締め切り

索引

入稿を急ぐ必要がある

作成方針の細部は巻担当委員の相談に一任する

付き物

塾長の挨拶の原稿締切は一〇月末

編集委員会記録は開催日時のみとする

資料所蔵機関一覧はこちらから書式を示し、了解を得

る

第五一回 同 一〇月三日

第九卷本文の編集状況

収録書簡は九月末をもって締め切る

索引について

配列は姓の完全五十音順とする

索引凡例はやや大雑把に示し、具体例で解りやすくす

る

第五二回 同 十一月一日

第九卷について

出張校正は二〇〇三年一月一〇日とする

刊行日は未定

本文および解題は年内に全作業を終了する

索引について

初稿ゲラは一月一九日返却

人名の肩書き等に〔 〕を用いるのは最小限度に止める

〔 〕内に代名詞は掲載しない

第五三回 同 一二月二日

第九卷の進行状況

出張校正は一月二〇日前後

刊行は一月二三日の予定

全巻刊行後、約一〇〇セットを新たに配布する予定

その発送のための段ボール箱を岩波に製作依頼する

第五四回 二〇〇三年二月四日

第九卷の刊行につき報告

奥付は一月二八日

中扉に一丁切り取り貼り込みの必要が生じ、発送は仕

上がった分から順次行った

「ひとこと一覽」その他

第九卷に収録できなかった部分は、『福澤論吉年鑑』

もしくは『福澤手帖』に掲載する予定

岩波書店のホームページの件

完結後は残部販売の表示に変更となる

『福澤論吉事典』が必要となる旨の意見交換がなされた

最後に本編集委員会の解散が宣言された

なお、本書簡の刊行事業に携わったスタッフは以下の通りである。

編集委員

飯田泰三、川崎 勝、小室正紀、坂井達朗、寺崎 修、

西川俊作、西沢直子、松崎欣一

事務局

東田全義、赤尾迪子、中沢正子、木崎洋子、佐渡真理

子、清水美里、菅田万里子、関口みゆき、古郡恵美子、

堀田直美、本郷理佳、山根秋乃

編集補助

石井寿美世、岡部泰子、金沢裕之、川澄 勤、小林倫

子、重田麻紀、田中朋子、都倉武之、西野摩耶、堀 和

孝、吉岡 拓

編集協力者

竹田行之